

船舶事故調査報告書

平成21年12月10日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委 員 横 山 鐵 男（部会長）
 委 員 山 本 哲 也
 委 員 根 本 美 奈

事故種類	沈没
発生日時	不明（平成21年4月1日 07時40分ごろ沈没した船体が発見された。）
発生場所	宮城県女川港石浜ふ頭南岸 女川港南防波堤灯台から真方位329°1,035m付近（概位 北緯38°26.7′ 東経141°27.4′）
事故調査の経過	平成21年5月14日、本事故の調査を担当する主管調査官（仙台事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	引船 第十二 ^{てんてい} 天帝、13トン 200-16605宮城、明神建設興業株式会社 11.97m(Lr)×4.00m×1.50m、鋼 ディーゼル機関、345kW、昭和61年6月21日
乗組員等に関する情報	船長 男性 36歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成14年11月21日 免許証交付日 平成19年10月29日 (平成24年11月20日まで有効)
死傷者等	なし
損傷	濡損
事故の経過	<p>本船は、船長1人が乗り組み、台船の船尾に船首を着けた押船として、宮城県出島漁港から建設資材を運搬して女川港に帰港し、平成21年3月16日16時00分ごろ同港石浜ふ頭南岸に左舷付けで係留された。</p> <p>船長は、台船の荷揚げ作業を終了した後、本船の機関室等を見回って異常のないことを確認して操舵室出入り口を施錠し、同日17時00分ごろ本船を無人として下船し、石巻市の自宅に向かった。船長は、海上が荒れ模様であり、本船の使用予定がしばらくなかったことから、基地である石巻港に後日、本船を回航することとした。</p> <p>船長は、これまでも、本船を無人として女川港に長期間係留することがあり、係留中に問題が生じたことはなかったことから、翌日以降、訪船することはなく、船体及び機関室の点検を行わなかった。</p> <p>本船は、無人のまま係留中、機関室が浸水したことによって浮力を喪失し、4月1日07時40分ごろ付近住民によって台船後部に係止された船首部のみを残して沈没しているところを発見された。</p> <p>本船は付近の岸壁に引き揚げられたが、プロペラの周囲に取り付けられたプロペラガードの底側が上方に曲がっており、船底のき裂又は穴は肉</p>

	眼では発見されなかった。								
気象・海象	平成21年4月1日07時40分ごろ 気象：天気 曇り、風向 北北西、風力 1 海象：うねり なし、風浪 なし								
分析	<table border="0"> <tr> <td>乗組員等の関与</td> <td>不明</td> </tr> <tr> <td>船体・機関等の関与</td> <td>あり</td> </tr> <tr> <td>気象・海象の関与</td> <td>不明</td> </tr> <tr> <td>判明した事項の解析</td> <td> <p>本船は、約2週間の係留中、船底に生じた微細なき裂又は穴から海水が機関室に浸入し、浮力を喪失して沈没した可能性があると考えられる。</p> <p>船底に生じた微細なき裂又は穴の位置等の状況及びその発生理由については、明らかにすることはできなかった。</p> </td> </tr> </table>	乗組員等の関与	不明	船体・機関等の関与	あり	気象・海象の関与	不明	判明した事項の解析	<p>本船は、約2週間の係留中、船底に生じた微細なき裂又は穴から海水が機関室に浸入し、浮力を喪失して沈没した可能性があると考えられる。</p> <p>船底に生じた微細なき裂又は穴の位置等の状況及びその発生理由については、明らかにすることはできなかった。</p>
乗組員等の関与	不明								
船体・機関等の関与	あり								
気象・海象の関与	不明								
判明した事項の解析	<p>本船は、約2週間の係留中、船底に生じた微細なき裂又は穴から海水が機関室に浸入し、浮力を喪失して沈没した可能性があると考えられる。</p> <p>船底に生じた微細なき裂又は穴の位置等の状況及びその発生理由については、明らかにすることはできなかった。</p>								
原因	<p>本事故は、本船が女川港において無人で係留中、係留していた約2週間間に船底に生じた微細なき裂又は穴から海水が機関室に浸入したため、本船が沈没したことにより発生した可能性があると考えられるが、その前提状況が不明のため、事故の原因を明らかにすることはできなかった。</p>								